

日本聖公会 管区事務所だより

日本聖公会管区事務所
162-0805 東京都新宿区矢来町 65
電話 03 (5228) 3171 FAX 03 (5228) 3175
発行者 総主事 司祭 相澤 牧人

おめでとう

管区事務所総主事 司祭 ヨハネ 相澤牧人

クリスマスの期節となりました。救い主の降誕を記念し、その喜びに与かると共に、“救い主”“平和の君”の降誕が指し示していることの実践へと、信仰の歩みを続けていきたいものです。

「おめでとう」という言葉は、何か新しいことが始まり、それが喜びであるときに使われる言葉なのだ聞きます。この言葉が用いられるケースを見回して見ますと、確かにそうとも言えます。命の誕生のとき、入学のとき、卒業のとき、就職したとき、結婚のとき、資格をとったとき、病が癒えての退院のとき、などなどは、まさにこれから新しいことが始まるときなのでしょう。

クリスマスのこの時期に、ことにそのことに思いを寄せるなら、マリアへの受胎告知が思い出されます。「おめでとう、恵まれた方、主があなたと共におられる。(ルカ1・28)」この告知によって新しい救いの時代が始まったのです。そしてイエス様のこの世への誕生によって、その救いが実現して行ったのです。それ故に、私たちは「クリスマスおめでとう」との挨拶を交わすのでしよう。

その挨拶を交わしながら、クリスマスの喜びをどのように味わうのでしょうか。そのひとつの姿を、私は聖餐式に見出しています。キリエ・エレイソン、グローリア(大栄光の歌)、ホサナ、ハレルヤ、イテ・ミサ・エスト(派遣の言葉)、アーメン。これらの言葉の中にクリスマスの喜びが表現されていると思うのです。

キリエ・エレイソンのキリエは「主よ」との呼びかけであり、エレイソンは、神に人間への憐れみを求める気持ちと、救ってくださる神への賛美の気持ちが深く結び合わされている言葉であると教えられました。グローリアは、救い主の誕生を知らされた羊飼いたちに天使たちが歌った賛美の歌です。「いと高きところには栄光、神にあれ、地には平和、御心に適う人にあれ。(ルカ2・14)」と。ホサナは、日本語では万歳!という言葉が持つ感情のようなものなのでしょう。「ほめたたえよ、主のみ名によってこられる方を、いと高きところにホサナ」。ホサナはメシアと結合するとき、「万歳」のような歓呼、歓迎の叫びとして用

□会議・プログラム等予定

(11月25日以降および
前回報告以降追加分)

- 12月
14日(水) 主事会議
16日(金) 収益事業委員会
19日(月) 宣教協議会実行委員会
- 2012年1月
10日(火) 礼拝委員会
12日(木) 人権担当者会〔中部教区センター〕
15日(日) ~ 16日(月) 各教区正義と平和担当者の集い〔京都教区センター〕
16日(月) 正義と平和委員会〔京都教区センター〕
16日(月) ウィリアムズ主教記念基金委員会〔立教大学〕
18日(水) ~ 19日(木) 日韓協働合同委員会〔管区事務所〕
19日(木) 主事会議
21日(土) ジェンダープロジェクト会議〔場所未定〕
22日(日) ~ 23日(月) 青年委員会〔中部教区センター〕
23日(月) 正義と平和・憲法プロジェクト
24日(火) 「いっしょに歩こう!プロジェクト」運営委員会〔仙台〕
25日(水) 58-10 常議員会
27日(金) 懲戒及び管区審判廷規則検討特別委員会
30日(月) ~ 31日(火) 沖縄プロジェクト会議および辺野古訪問
- 2月
1日(水) 年金委員会・年金維持資金管理委員会合同委員会
6日(月) 宣教協議会実行委員会
7日(火) ~ 9日(木) 主教会〔北関東〕
9日(木) 教区間協働デスク
15日(水) 広報主査会
23日(木) 主事会議
27日(月) 第2回聖公会平和協議会実行委員会

(次頁へ続く)

※ 管区事務所の冬休み 12月30日(金) ~ 1月5日(木) 管区事務所業務を休みます。よろしくお願いたします。

いられる言葉です。賛美の叫びです。喜びの叫びです。ハレルヤも同じような意味であると思います。イテ・ミサ・エストは現在の祈祷書では「ハレルヤ主と共に行きましょう」となっている派遣の言葉です。聖餐に与かった私たち一人ひとりがこの世にクリスマスの喜びを持って派遣されていくのです。アーメンは、そのとおり、と賛同の意思を表す言葉です。

クリスマスはキリストのマス、つまり聖餐式を意味することなのだとこのことを再確認したいものです。蛇足ですが、教会は受聖餐者の信徒を現在受聖餐者とするための条件として、年に2回以上在籍の教会で聖餐に与かることを定めています(法規第57条2)。この2回の意味はもちろん数としての2回ですが、信仰的には、イースターとクリスマスには少なくとも聖餐に与かるようにと語っているのではないのでしょうか。

聖餐式の中で唱えるこれらのひとつひとつの言葉は、その根底に、イエス・キリストへの感謝・賛美が、そしてそこから与えられてくる使命を担って、私たちがこの世で喜びを持って生きていこうではないかと告白しているのでしょうか。

喜びの英語「JOY」は、次の三つの言葉の頭文字を採ったものなのではないだろうか、と考えた人がいました。JはJesus(イエス)のJ、OはOther(他者)のO、YはYourself(あなた自身)のYです。本当の喜びは、まずイエス様がおられ、次に相手がいいて、そして最後に自分

(前頁より)

<関係諸団体会議等>

11月25日(金) JEDRO 会議

12月16日(金) JEDRO 会議

2012年

1月6日(金) JEDRO 会議

20日(金) NCC 常議員会

26日(木) ~ 28日(土) 外登法問

題と取り組む全国キリスト教

連絡協議会全国協議会〔東京、

韓国YMCA〕



という関係の中にあるのではないかということです。これは本当のことなのかどうかは私には分かりませんが、真の喜びとは何かを思いを巡らすひとつの尊い材料として心に留めておいても良いことなのではないのでしょうか。

毎年迎えるクリスマスですが、迎えるたびに、その思いを深めていきたいものです。そして、「おめでとう」と挨拶を交わすことを通して、クリスマスの出来事は、私にとって新しい何かが始まる時なのだ、との思いを強くしたいものです。その思いとは、神の国の福音を伝えること、すなわちそれは平和を構築することであり、命を大切に社会を実現していくことなのだと、私には思えるのです。



□主事会議

第58(定期) 総会期第18回
12月14日(水)

- 2012年度大斎克己献金国内伝道強化プロジェクト選定に関して
東京教区より申請書の提出を受けたが、さらに説明資料等を求めることとした。
- 教役者遺児教育基金の「奨学金給付」に関して
同基金委員会から「教役

2011年教区会選出常置委員

北海道	聖職 信徒	大町信也(長) 石塚正史	下澤 昌(書記) 神谷順子	李香男 津田武典
東北	聖職 信徒	八戸 功(長) 阿部禧典	中山 茂(書記) 長井 淳	長谷川清純 渡部和夫
北関東	聖職 信徒	斎藤英樹(長) 谷川 誠	輿石 勇 横川 浩	小野寺 達(書記) 菊池邦香
東京	聖職 信徒	笹森田鶴(長) 松田正人	下条裕章 黒澤圭子(書記)	佐々木道人 松平健次
横浜	聖職 信徒	長野 睦 中林三平	河崎 望(長) 宮崎道忠	入江 修 村井恵子
中部	聖職 信徒	野村 潔(長) 牛島達夫	土井宏純(書記) 徳山義章	西原廉太 平部延幸
京都	聖職 信徒	黒田 裕(長) 伊藤美佐子	石塚秀司 川村寿一	池本則子(書記) 佐々木靖子

者以外への奨学金給付について意見が求められ、主事会議としての意見をまとめた。 次回以降の会議 2012年1月19日(木)、 2月23日(木)	大阪	聖職 信徒	山本 眞 長野泰信(書記)	岩城 聰 佐野信三	磯 晴久(長) 畑野めぐみ
	神戸	聖職 信徒	芳我秀一(長) 大東康人	上原信幸(書記) 宮永好章	小南 晃 橋口 満
	九州	聖職 信徒	堀尾憲孝(長) 秋山献之	中村 正 蔵元英一	小林史明 東美香子
	沖縄	聖職 信徒	上原榮正(長) 大倉信彦	戸塚鉄也 高峯初子	高良孝太郎(書記) 真喜屋 明

《人 事》

横浜

執事 ダビデ渡部明央	2011年12月3日	司祭に接手される
司祭 ダビデ渡部明央	2011年12月3日付	横浜聖クリストファー教会牧師補の任を解き、同日付、横浜聖クリストファー教会副牧師に任命する。
執事 バルナバ吉川智之	2011年12月3日	司祭に接手される
司祭 バルナバ吉川智之	2011年12月3日付	鎌倉聖ミカエル教会牧師補の任を解き、同日付、鎌倉聖ミカエル教会副牧師に任命する。
執事 ミカエル大居雅治	2011年12月3日	司祭に接手される
司祭 ミカエル大居雅治	2011年12月3日付	鴨川聖フランシス教会牧師補の任を解き、同日付、鴨川聖フランシス教会副牧師及び南三原聖ルカ教会協働司祭に任命する。
聖職候補生 パウロ眞野玄範	2011年12月3日	執事に接手される
執事 パウロ眞野玄範	2011年12月3日付	長坂聖マリヤ教会牧師補に任命する。

管区・財政担当者会議連絡協議会を開催



財政主査 山中 一

去る12月9日(金)午後から10日(土)午後まで、一泊二日の日程で各教区の財政担当者連絡協議会を管区事務所で開催した。

全国11教区の財政担当者の方々が各教区1~2名と、管区側では植松首座主教、管区給与調整デスクからチーフの三鍋横浜教区主教とデスクメンバー、相沢総主事、総務主事、広報主事、財政主事、及び聖公会新聞の唐沢社長も同席され、計32名で日本聖公会の抱えている財政上の諸問題とその背景や対策などについて

じっくりと話し合う機会を持った。

(後日、詳細の内容を含めた議事録を作成する予定であるが、会議では単に財政上の問題に限定されず、今、私たち日本聖公会が直面しているいろいろの問題が議論されており、各教区、教会の関係者の皆さまにぜひ一読戴きたいと思っている。)

会議の中での主な議論は、次のような内容であった。

(1) 管区・給与調整デスクからの提案

2008年の第57定期総会で設置された『教役者給与検討デスク』から、チーフの三鍋主教と信徒メンバーである外池兄（九州教区）と横川兄（北関東教区）が出席され、同デスクの今までの検討内容と今後の方向性について、次のような説明があった。

- ・日本聖公会総会では、聖職の人事交流に影響を及ぼしている問題に対処するため、教区間の壁を低くすることや教役者の給与格差を解消することが挙げられている。この打開策の一つとして教役者給与検討デスクでは、具体的に『教区間の給与格差の解消』を行うことが必要であるとの結論に至った、との報告があった。
- ・このためには、給与レベルの低い教区の『給与水準のアップ』と『全国一律の給与体系の確立』が必要となるが、各教区の財政力や歴史的背景から実行し難い状況下にある。そこで、まず、給与レベルが下から一番目、二番目の教区を、三番目の教区の給与レベルに合わせることを目指して、当該教区に人件費の助成を行うことが、このデスクの答申の主旨である。
- ・具体的な方策として、この助成額（年間約500万円）を各教区の分担金の増額と管区会計からの支出で対応することができないかとの提案であり、各教区とも財政が逼迫する中での費用負担の増加となるので、ここに議論が集中した。
- ・各教区の財政担当者もこの必要性は認めながらも、『まず、当該教区で保有する資金を活用するなどの自助努力が先ではないか』、『与える側と与えられる側の信仰的なマインドが大切である』、『給与水準の増額だけが目的ではなく、教勢の維持拡大のための教区間協働の働きを積極的に支援する制度やルールが必要ではないか』などの意見があった。
- ・本件は、日本聖公会の根元的な問題に及んでおり、正式な決定は来年5月の第59定期総会となるが、今回の議論を基に各教区で十分に話し合われることが望まれる。

(2) 管区一般会計予算の『補正予算』を策定する件

東日本大震災の発生に伴い、東北教区と北関東教区の教区分担金を大幅に減額する（2011年分75%免除、2012年分100%免除）こととした。これにより管区一般会計の収入が大幅に減少したが、一方では諸会議の開催も減ることとなって結果的には収支がほぼバランスする見込みである。

(3) 管区収益事業の件

管区の収益事業である渋谷NSKKビルの賃貸事業については、本年4月末で今までのテナントが退出したので、次のテナントの募集を開始していた。

その結果、本年10月に新たなテナント（婦人服のアパレルメーカー）との契約に至ったが、東京地区の賃貸ビルの事業環境は厳しく、賃料が年間3900万円から3200万円と大幅に低下すると共に『4ヶ月フリーレント（賃料無料）』の条件を受けざるを得ず、結果として11ヶ月間の『無収入期間』が生じた。これについては、今後、管区の一般会計への拠出額の変更も視野に入れて検討を進めるとのことであった。

(4) 聖公会年金、公的年金について

聖公会年金は、現在、加入者（保険料負担者）184名に対し受給者186名と、ほぼ現役一人が退職聖職一人を支えている状況にある。年金会計の収支は、年間支給額約8900万円に対し保険料収入は約4000万円であり、その差額を資金の運用で賄うこととなっているが、現状では運用自体もマイナスであって、この数年間は年間約4500万円ずつ資金が減少しているのが実態である。

しかし、計算上では『毎年5名以上の聖職の増加と金利2.5%以上の運用』の条件が満たされれば年金原資は枯渇することが無いとの結果であり、当面は『5万円年金』を堅持することとしている。

一方、公的年金については支給される給与額に応じて年金が減額される『在職老齢年金

制度』があるが、教区によってはこれを考慮せずに給与が支給されていて公的年金が減額されているケースもある。これについては、一般企業で行われているように『年金の満額受給』となるように給与を減額し、結果として現状の手取額をほぼ確保するようなモデル試算を管区側から提示することとなった。

(5) 税務上の留意点について

最近は特に宗教法人に対する課税については厳しくなる方向にあるが、具体的な事例として、バザー収入、物品の販売、聖職給与、事業収益などについて全般的な留意点の説明があった。

(6) 東日本大震災関連の各プロジェクトの収支報告について

さまざまな活動と献金及び各資金の収支についての全般的な報告があった。

今回は懇親会を含めて一泊二日の会議であったが、出席者の皆さまはじっくりと話し合うことが出来たのではないかと考えている。

教会の財政上の問題は単に金銭上の問題ではなく、その裏に有る各自の信仰や思いに係わる問題でもある。今回、この会議を通して本音でしっかり話し合うことが出来たことは、全公会的なつながりをもう一度再確認する機会でもあったと思われる。

以上



第12回人権担当者協議会（宮城県）に出席して

管区人権担当者 司祭 小林 宏治

今回、わたしは管区人権担当者として、この協議会に出席しました。担当者としては2年目の新米です。管区における人権問題に携わる部署として、同宗連や部キ連などの外部の部落差別問題に取り組む団体に、管区の代表として関わっております。対内的には、新任研（赴任前の神学校卒業者への人権諸問題についての研修）の実施や各教区の人権担当者との情報交換、研修会開催などを担っております。

さて、今回行われました協議会は、3月11日の東日本大震災という未曾有の災害に大きな衝撃を受け、企画されました。日程は、10月25日（火）14時から27日（木）12時まで。開催場所としては、東北の宮城・仙台と南三陸町志津川を中心に行われました。震災から半年という時でした。

震災直後から、全国からボランティアが東北に集まり、被災者支援が行われました。そのひとつに、日本聖公会が管区として取り組んだ「いっしょに歩こう!プロジェクト」があります。報告書

などが全国の教会に届けられるようになり、その様子が少しずつわかるようになりました。わたしたちはその働きから、人権にかかわる課題について共に学びたいと思いました。その思いが今回の協議会開催となりました。

参加者は東北、北海道を除く9教区から、それぞれの人権担当者が、また管区のスタッフとして5名が参加しました。合わせて14名でした。ざっと、プログラムに沿って、記していきたいと思えます。

まず、全国各地から仙台基督教会に集合しました。午後2時に出発、その日の宿泊場所である、南三陸町志津川にあるホテル観洋に車で移動しました。オリエンテーションの後、東北教区教役者といっしょに夕食をとり、合同で、セッション1の「いっしょに歩こう!プロジェクト」（報告者：中村淳司祭）についての現地の活動報告を聞きました。この日と、次の日の午後3時ごろまで、東北教区教役者会とプログラムを一緒にさせていただきました。現地の活動は、多岐にわたり、

多くの人たちが現地の方々との交流の中で地道な努力を重ねてこられたのだと改めて頭の下がる思いがいたしました。また、わたしは今、住居が和歌山県にあり、遠くに離れていると、いつのまにか、震災という事実までも意識の片隅に追いやってしまっている、記憶から薄れて行く自分にもはっとさせられました。また、南北500kmという考えられない大災害を、改めて認識させられました。

次の日、朝食後に、聖餐式を行いました。志津川の町を望む大きなガラス張りの部屋から遠くがれきの山を見ながらの聖餐式は何とも言えないものでした。震災がなければ、絶好の景色のよい、気持ちの良い聖餐式が行えたのではと思いました。聖餐式後に、セッション2で、南三陸町志津川在住で、被災された鈴木清美さん(55才)からお話を伺いました。九死に一生を得た一人です。前日見たDVDにも登場されたその方の生々しいその時の状況の説明に、ただただうなずくだけでした。鈴木さんは、地元の障害のある子どもたちの遊び場「おもちゃ図書館『いそひよ』」代表として、震災前から、活動を行っておられました。震災後もその活動再開に向けて尽力されておられます。津波で流された建物に代わるところが見つかり、少しずつ復興の手ごたえを感じておられるようでした。地元の人たちの復興への願いと、その実現こそ大切にしなければならぬことであると思います。被災された方の前向きな発言にこちらも勇気づけられました。震災後すぐには、このような前向きな思いを持つことが難しかったのではと思います。多くの苦勞、

どうしてという思いも強くあったと察します。けれども、そこから上記の姿に変えられるその支えこそ、神様のみ力であり、多くの人との交わりではなかったかと思えます。とてもいい笑顔が印象的でした。

昼食後、津波で何もかも流され、何もなくなつた現地(震災後に多くのボランティアの人たちが片づけされたその跡地)を車で移動しながら見て行きました。時には、車から降りて、その地を踏みつつ。今回は、地域の距離を感じるために、あえて遠回りして、海沿いを北上し、気仙沼まで行きました。こちらも海岸近くでは、道はでこぼこだらけ、車が上下に大きく揺れる悪路でした。ところどころに警官が立ち、消えた信号機の代わりに車を誘導する姿が目につきました。まだまだ片付けもままならないという印象でした。その後大回りをして、一関市室根にあるボランティア宿泊場所として使用されている室根聖ナタナエル教会へ行き、その後、仙台の宿泊場所への帰路につきました。久しぶりの車での長距離移動でした。

翌朝は、聖餐式と各教区の担当者からの報告会と振り返りを行いました。時間が少なく、十分に分かち合えたかはわかりませんが、現地の実情を目のあたりにした参加者からは、よい機会をいただいたと言っていただけでした。

最後に、中部教区報の11月号の野村司祭の記事にも記されていた、東北教区の加藤博道主教の言葉を紹介させていただきます。「忘れ去られていくことが、一番、恐ろしい」と。

□ 正義と平和委員会から ⑪ ---

神に栄光! 地に平和 人にあれ!

私は日本聖公会平和と正義委員会沖縄プロジェクト委員会出席のため、今沖縄にいる。

沖縄教区高良孝太郎司祭と九州教区の柴本孝夫司祭と共に、2012年沖縄週間「沖縄の

旅」の計画を練るため、「高江」を訪問した。大阪でも「辺野古」のことは、ニュースでたまに流れることがあるが、「高江」のことはよほど注意しないと、耳にし、目にすることはない。

1. 今「高江」では何が起きているのか。

私たちは「高江」で抗議の座り込みを続けておられるYさんから話を伺った。

1996年のSACO(Special Action Commit-

tee on Okinawa 沖縄における施設及び区域に関する特別行動委員会) 合意によって、日米両政府は沖縄北部訓練場の北側半分を返還するのと引き換えに、北側にあるヘリパッドを南側に移設し、海からのヘリパッド侵入路を建設することを決めた。このねらいは、北部訓練場を世界で唯一のジャングル戦戦闘訓練施設として強化することにある。第二次世界大戦末期、本土決戦に備える為の捨石として、戦闘員だけではなく多くの非戦闘員の命を奪った悲惨な戦いを経験した沖縄は、米軍基地だけではなく、米軍の戦場さながらの訓練場として使われている。沖縄の方々の「戦争はだめだ。基地はいらない」という熱い平和への願いは受け止められることなく、アメリカの世界戦略による戦争に加担させられているのだ。

更に怖いのは、このヘリパッドに配備される最新鋭機MV22オスプレイである。これはアメリカでも“未亡人製造機”と呼ばれ、墜落事故が多発する欠陥機である。このオスプレイが、辺野古に造られようとしている新基地から高江ほかの北部訓練場21ヶ所のヘリパッドに頻繁に、それも夜間訓練を中心に飛来することになる。その騒音と噴射時の熱は想像を超えるものがあり、人と自然への被害が心配である。

ここで辺野古についても触れておく。ご存じのように普天間基地は、町のど真ん中にあり、多くの住民が生活し、学校ほか大切な施設が回りに存在している。危険極まりない状況で、米軍も移転はやむなしと考えている。米軍は辺野古移設は時間がかかるので、豪州への移転をという意見が強いと聞く。でもなぜ辺野古なのか。日本政府の閣僚がなぜ足しげく沖縄を訪れるのか。辺野古の新基地は日本政府が願っているというのだ。今米軍と自衛隊の協力関係は進み、いずれ辺野古は自衛隊の基地になるという。これが日本政府のねらいなのだ。

2. 何故座り込みを ～ヤンバルクイナやジュゴンの嘆きが聞こえる
高江周辺をはじめ北部地区には、「やんばる

の森」がある。沖縄県最大の水がめ(生活用水の60%)であり、ヤンバルクイナをはじめ貴重な、絶滅危惧種に指定されている、いくつもの数少なくない動植物の宝庫である。また辺野古の沖には、ジュゴンがやってくる美しい海がある。人々の「いのち」だけではなく、このすばらしい、一度壊せば二度と造り直せない自然と「いのち」が、破壊されていく。もうこれ以上許すことはできない、心ある人々が、高江や辺野古に座り込みを続け、抗議の声をあげておられる理由がそこにある。皆様も是非、高江・辺野古に足を運んでください。

3. クリスマスに私たちは

先だって大阪市長選挙・大阪府知事選挙があった。多くの人々が変革を望んでいることはわかる。先の東日本大震災そして原発事故は、私たちに生活の仕方を含めて変化・変革を促す機会となっている。しかし、日本は一体どこへ行こうとしているのかがまことに心配であり、不安である。

イエス誕生の日、栄光は、力で人々をねじ伏せ支配しようとする王や権力者たちではなく、神に帰せられる。イエス誕生の知らせは、権力者たちではなく、一晩中羊の番をし、生活の苦しさを知る貧しい羊飼いたちに告げ知らされた。救い主は、誰も排除しない、誰も拒まない、柔和な赤ちゃんの姿で顕現された。神の願い、神の夢は、軍隊や基地、戦争に代表される力による支配ではなく、「地に平和、人々にあれ」なのだ。私たちは、こうしたクリスマスの出来事を思い巡らし、神の願い、神の夢の実現のために働くように招かれている。

☆ 2012年度沖縄週間「沖縄の旅“命(ぬち) どう宝(たから)」は6月22日(金)から25日(月)に実施される。一人でも多くの方の参加を願っている。

日本聖公会正義と平和委員会
沖縄プロジェクト担当 司祭 磯 晴久

教会女性のためのリトリート



～あなたのギフト～ 探すー見つけるー楽しむー使う

正義と平和委員会ジェンダープロジェクト担当 大岡 左代子

11月4日(金)～5日(土)「秋の週末、京都に集いませんか?あなたに与えられているギフトを数倍楽しむために!」という呼びかけに、7教区から24名の女性たちが集い、教会女性のためのリトリートが開かれました。リトリートリーダーは、今年の3月まで聖公会神学院でスピリチュアル・ディレクターとしてお働きになっていた景山恭子さん。かねてから女性デスクとジェンダープロジェクトとで、教会に集う女性たちのエンパワメントのためのリトリートを企画したいと考えていたのですが、今回はその思いを景山恭子さんが受けとめてくださり、はるばるニューヨークから来てくださっての実現となりました。

午後3時半からのセッションは「神さまの息」を感じることから始まりました。人は、神さまの息を吹きかけられることによって造られた、人が誕生した時にあげる産声はこの世での最初の「息」、人がこの世での生を終える時にも大きな「息」をして終える。これらの「息」はすべて吐き出す「息」。私たちはすべてを「吐き出す」ことによって新たな息を吸い込む・・・そんなリードの中で、私たちが神さまの息によってこの世に生きるものとされたことから、今、生きていることを呼吸によって感じる時を過ごしました。そして英語で「捨てよう、捨てよう、すべてを捨てよう、神はすべて」と歌いながらエクササイズ。「来たれ、来たれ、すべてのものは来たれ、神はすべて」と捨てた後は、来るもの拒まずという気持ちを歌にこめてエクササイズ。捨ててしまった後に「来たれ、来たれ」と歌う気持ちは、なんだか捨てる前よりも強くなっていると感じるのはとても不思議な体験でした。

それから私たちは「遊び」の世界へと誘われます。子どもたちにとって遊びはまさに生きる力であり、生きることそのもの。その中では、主体的に事物に働きかけ、さまざまに工夫したり試したり、創意工夫をしながら多くのことを体験的に学んでいきます。そこでは、自由になること、心を自由にすることが大切。旧約の神のヤハウェがハーヤーという動詞から出ていることは明確ですが、このハーヤーという動詞は元々、活動的であるという意味をもつもので、神さまはたえず動き、活動しておられる、つまり遊んでおられるのです。そんな神さまをイメージしながら、子どもになって自分の心を自由に遊ばせてみましょう・・・自分にとっての「遊び」とは何か・・・心をしずめて黙想しました。



そしていよいよメインテーマの「あなたのギフト」へ。ヨハネによる福音書4:7-15のイエスとサマリヤの女との会話から「ギフト」について思いを深めました。10節でイエスが言われたことは「もしあなたが、神の賜物を知っており・・・」

の「賜物」を「ギフト」と読み替えて何度も聖書を読み返します。一人で、何人かで・・・。「もし、あなたが神のギフトを知っており、また『水を飲ませてください』と言ったのが誰であるか知っていたならば、あなたの方からその方に頼み、その人はあなたに生きた水を与えたことであろう。」何度も読むうちに「ギフト」という言葉が、自分の中に入りこみ、「ギフト」とは何か?という気持ちが変わってきます。『私たちは「賜物」と聞く時には、それは何かの「才能」であったり「できること」「責任をとまなうこと」「応答」などと思いがちですが、果たしてそうでしょうか?』という景山さんの問いかけに、各自が「私のギフト」について思い巡らし、その思いを分かち合いました。そして、何度も何度もこの箇所を声にだして読み向き合う時、自分が今ここに存在していることそのものが「ギフトである」という喜びを見出すことができたのは私だけではなかったのではないかと、という気がします。最後のセッションでは、一人ひとりが一本ずつろうそくを灯しながら「私は世の光です」と言い、その後その方の名前を呼び、全員で祈りました。「～さん、あなたが慈しみと愛で満たされますように。すべての苦難から解き放たれますように。癒しがありますように。主

の平和がありますように。」と。自分だけのためにみんなが祈ってくれている・・・ちょっと気恥ずかしい気持ちもありながら、その祈りが大きな力を与えてくれることを身体で感じる瞬間でした。全員のろうそくが灯り、全員が祈られた時、本当に聖霊に満たされたとても心地のよい空気が会場全体を包んでいた気がします。そして、もっともっと黙想をしたい、そんな気持ちを心にとどめながらそれぞれに自分の場所へと帰ってきました。

初めての企画でしたが、卒業間近の女性の神学生にぜひ参加してほしいという思いから、今回は、ウイリアムス神学館のリセスに合わせた時期の京都での開催となりましたが、これからもこのような黙想会を各地で開きたいと願っております。この集まりのために心をこめて準備くださりニューヨークから来てくださった景山恭子さん、そして参加してくださったみなさまに心から感謝したいと思います。(写真・イラストも筆者)



連載

キリスト教会におけるカルト対策 ③

2回にわたって、日本社会に大きな弊害をもたらしている統一協会による「伝道、入信-いわゆる靈感商法-」、「合同結婚式」、「学校における実態」、そして統一協会の活動を支えている「統一協会の教え」について述べてきた。最後にマインドコントロールを用いて人間の尊厳を破壊する統一協会をはじめとするカルト団体に対してキリスト者としてどのように取り組んでいけばいいかについて述べたい。

・マインドコントロール

管区事務所宣教主査 司祭 卓 志雄

アメリカの代表的なカルト問題専門家であるスティーブン・ハッサン (Steven Hassan) は19才であった1974年から2年間統一協会に入り積極的に活動を行ったが、交通事故を機に家族からの愛と努力によって脱出することが出来た。その後、彼は自分の経験を活かしてカルト団体による被害者のケアとカルトに対する予防、研究活動を行っている。

特にハッサンは非常識的なカルトに陥る理由はマインドコントロールであると指摘する。彼によると、マインドコントロールとは一人のアイデン

ティティに混乱をもたらすと同時に新しいアイデンティティに変えてしまうシステムであり、すべてが悪いわけではないが、マインドコントロールが及ぼす否定的側面に焦点を合わせ研究している。強制によらず、さも自分の意思で選択したかのように、あらかじめ決められた結論へと誘導する技術と言われているマインドコントロールは四つのタイプがあるとハッサンは説明している。

1. 行動統制 (behavior control): カルトは信者に対して献身を強要し日常生活を緻密に統制する。
2. 思考統制 (thought control): カルトは信者の思想を徹底的に改造し、自分たちの教理に焦点を合わせ個人が思考し決定できないように統制する。
3. 感情統制 (emotional control): カルトは信者を統制するために罪悪感と危機感を注入する。カルトの指導者が信者の欠点を取り上げ非難しても信者は有難く受け入れてしまう。
4. 情報統制 (information control): カルトは信者に対してすべての情報を遮断し批判意識を抹殺する。そのためカルト団体と指導者に対して常識的に批判を行うことは出来なくなる。

またカルトから脱出した時がより危険であると指摘している。それは失っていた自分のアイデンティティを回復することはさらに大変な作業であるからで、そのため自ら思考し決定する力を養うことは何より大切だと述べている。

・周りの家族や友人が入ってしまったら

カルト団体はその姿を巧みに変え、見極め難くなっている。そのもつで苦しむ人々も絶えず生み出され、社会的な問題を引き起こしており、また、私たちの教会にも好ましからざる影響を与えている。わたしたちの周りにカルトによって苦しめられている人がいる場合はどうすればいいのか。

- ① まずネット検索!

カルト団体が最初から名前や正体を名乗ることはない。誰でも最新の手口や被害情報を匿名で安全に知ることが出来る。しかしネット上の情報はすべて正しいとは限らないので統一協会問題キリスト教連絡会のサイト (<http://unification-church-problem.web.infoseek.co.jp/index.htm>) を参考にして検索してみることをお勧めする。

② 大学機関に相談

カルト団体は多くの若者、特に大学生をターゲットにする。そのため多くの大学はカルト被害を訴える学生に対してカウンセリングルーム、事務局を設けている。またキリスト教系大学は宗教部、キリスト教センター、宗教主任、チャプレンなどの担当者がある。学内で起こっているトラブルの情報が集まっているところであり、専門機関、専門家とのネットワークも持って紹介してくれる。

③ 法律家に相談

カルトによる被害は殆ど金銭的問題を伴う。金銭的問題が発生したときには、やはり専門的知識を持っている弁護士と相談した方が良い。特に「全国霊感商法対策弁護士連絡会 (<http://www.lk.mesh.ne.jp/reikan/> 電話: 03-3358-6179)」は統一協会による霊感商法被害の根絶と被害者救済を目的として主に活動し、企業や官公庁、マスコミ、公的団体等からの統一協会等にかかわる問い合わせも多数寄せられる。統一協会問題においては、最も信頼のおける相談機関の一つである。

④ 統一協会問題キリスト教連絡会

これまで統一協会問題は、日本キリスト教団統一原理問題連絡会が率先して対応してきたが、この問題の重大性に鑑みキリスト教界全体が関わる必要がある問題であるとの認識から、日本基督教団、カトリック中央協議会、日本聖公会、日

本福音ルーテル教会、日本バプテスト連盟、在日大韓基督教会は2003年に統一協会問題キリスト教連絡会を発足させた。統一協会問題キリスト教連絡会のサイト(上記①参照)に記載されている各教派の担当局の連絡先が窓口となって、被害者に対するケアを信仰的に導いている。

・キリスト者として

常識的な人であっても上述したマインドコントロールによって気づかないうちにカルトに陥り、神様にかたどって創られた尊い人間の存在が全く否定され魂が苦しめられ、家庭が崩壊し、経済的、精神的、肉体的なあらゆる被害に遭ってしまう。このような被害者の人権を守ること、人権回復の活動は多くの病人を癒された主イエスキリストの宣教の一環である。日本聖公会も正義と平和委員会を通して次のような立場を表明し、カルト問題に対するわたしたちの認識を再確認させてくれる。

「(前略)わたしたちは、家族が入信して苦しい日々を過ごしておられる人びと、脱会して未だに心の中に重い障害を負っておられる人びと、霊

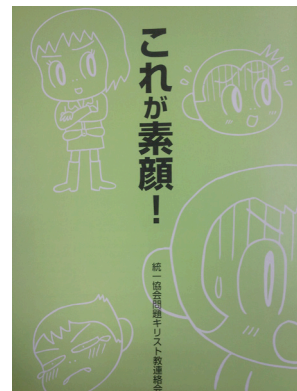
感商法によって精神的にも経済的にも被害を受けられた人びとが多くおられる現実を目を向けなければならないと思います。正義と平和委員会は、この世界で小さくされている人びとと共に歩むことを願って、昨年の総会で立てられた委員会です。わたしたちは、統一協会という他宗教の信仰内容を問題視しているのではありません。統一協会によって被害を受けておられる方が、現にわたしたちの周りにおり、そして今後も被害を受ける人びとが生まれる可能性のあることを、わたしたちは深刻に受けとめざるを得ません。」

日本聖公会をはじめとする日本の教会が世の塩と光の役割を担うためには、神様から与えられた正義と平和を破壊するカルト団体の問題について積極的に取り組む姿勢が必要であろう。またその際には、彼らとの物理的対決や対立よりも彼らの変化を求めて真摯に祈り、持続的研究と対話を続けることが大切である。しかしこれらの団体の横暴により人間の尊厳が抑圧される時には、果敢に預言者的立場から正義を宣言し行動していくことを躊躇してはならない。殊に今も苦しんで嘆いている被害者の涙を拭い取ることが使命であることを忘れずにいたい。

The screenshot shows the website for the Freedom of Mind Resource Center. The header includes navigation links: Home, Services, Information, Media, Contact. The main content area is divided into several sections:

- We Can Help:** A section describing the center's mission to help individuals who feel they have been misled or manipulated by a group or cult.
- Get Help Now:** A list of services including help for someone in a group or cult, help for estranged family members, frequently asked questions, a 24/7 helpline, and spiritual responsibility articles.
- Steve Hassan, and the Freedom of Mind Resource Center:** A section providing information about the center's founder, Steve Hassan, and the center's services.
- Recent News:** A list of recent news items, including articles about the history of the center, the role of the media, and the impact of cults on society.
- Books & Media:** A section listing books and media resources, including 'The #1 Best-selling Guide to Understanding, Assessing, and Escaping Cults' by Steve Hassan and 'The #1 Best-selling Guide to Understanding, Assessing, and Escaping Cults' by Steve Hassan.
- Steve on the World Wide Web:** A section listing various online resources, including videos, articles, and social media links.

スティーブン・ハッサン (Steven Hassan) のサイト
Freedom of mind
(<http://www.freedomofmind.com/>)



統一協会関連の問題の深刻さを伝えるため、統一協会問題キリスト教連絡会が発行した冊子「これが素顔!」



(日本聖公会管区事務所より海外管区にあてたクリスマスカード)

「いっしょに歩こう!プロジェクト」ホームページ
<http://nssk.org/walk/>



日本聖公会管区事務所ホームページ: <http://www.nssk.org/province/>
 ☆「管区事務所だより」についての要望・寄稿などをメールでお寄せください。
comm-sec.po@nssk.org 広報主事(鈴木)宛て